

住民説明会（浜地区）

日 時 7月29日（木） 18:00～19:08

場 所 浜会館

参加者 約25名

<市長あいさつ>

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともにお悔やみ申し上げます。

当初捜索活動は手掘りで行っていたが、現在は重機を主体とした部隊編成になっています。

7月29日、国道135号が開通する。

7月30日、東海バス、熱海－湯河原間の運行が再開される。

国が直轄で、逢初川上流部に砂防ダムの新設が決定したが、完成までに2年ほど掛かる予定です。

今後は、捜索活動を行いながら、県・国と緊密な連携をとり、地元の声を聞き、復旧・復興に取り組んでいきます。

7月26日から市役所福祉センター内に相談窓口を設置しました。

市長挨拶後、各担当（水道温泉課、税務課、まちづくり課、長寿介護課、社会福祉協議会より説明

水道温泉課 被害の程度により料金の減免が受けられます。

税 務 課 発行できる証明は、り災証明書、被災証明書、被災届出証明書の三種類ある。これらには、窓口での申請が必要です。

まちづくり課 7月30日から県営住宅、市営住宅の受付けを開始する
市外にいる人たちへの周知が課題であると認識しています。

長寿介護課 被害の程度によって、生活必需品の支援を受けることが可能です。

社会福祉協議会（災害ボランティアセンター） 具体的に何に困っているのか調査を行い、現状を把握していきます。

地域の人からの質問

Q 罹災証明の原因が7月1日からの大雨ということであるが、土砂災害ではないのか

A 熱海市全体に対する7月1日からの大雨によるものであるから、このような記載とした

Q 伊豆山小学校の生徒は、2学期から泉小学校に通うということだが、いつまでそういう状態になるのか

A 今の時点では分からない。子ども達への影響が少なくなるよう教育委員会の中で検討する、また教育長へ伝えます。

Q 土砂で被害を受けていないが、避難している。要望になるが、被害の格差があるから、罹災証明の判定に差があるのは仕方がないが、きめ細かい対応をお願いしたい

A 様々な支援物資がたくさん届いている。多くの方に行き渡るよう努力しています。

Q 土砂災害には、警戒していたが、予想以上の被害であった。

伊豆山の被害は、100年前の関東大震災以来である。伊豆山が一つにまとまって、復旧・復興をお願いしたい。

A 行方不明の方がいる中で、復旧・復興とは言いづらい。これからどういうまちづくりをするのか、伊豆山地区と一つになって検討していきたい。

Q 朝早い時間帯に運行する路線バスが欲しい

A 市からもしっかりと東海バスに要望する。皆さまの足の確保に努めます。

Q 来月お盆になるが、お墓の掃除に行くために道が確保されていない

A 搜索活動を優先しているが、それについても検討します。

Q 土砂は、直接店舗の中に入っていないが、他で土砂を洗っている際に汚水が壁に掛かったり、中に入ってきたりした。それは罹災証明の対象になるのか

A 証拠写真を元に判断し、検討するのが難しいと思う

Q 激甚災害等の判定が出るのはいつか

A 菅総理大臣にも強く要望したが、現実的には難しい。しかし、激甚災害に見合う対応をとってもらえると発言があった。

Q 義援金・支援金についてはどのような状況か

A 義援金は配分委員会を立ち上げて配分を決める、全ての人に行き渡るわけではない。支援金についての用途はまだ決まっていない

Q 家が全壊したが、生活必需品がすぐに必要だったので、自分で買いそろえてしまった。被害に応じて、支援物資をもらえるということであるがどうなるのか

A 全壊であれば、支給対象になるが、既にご自分で買った分についての費用を負担すると

いうことはできない

Q 伊豆山神社線についてどうなっているのか

A 災害車両だけが通れる状態です。